

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本血栓止血学会誌 19:510-519, 2008	インヒビターのない血友病患者の急性出血、処置、手術における凝固因子補充療法のガイドライン	白幡聡、嶋緑倫、岡敏明、天野景裕、花房秀次、瀧正志、三間屋純一、松下正、高松純樹、日笠聡、酒井道生、高田昇、吉岡章、竹谷英之、福武勝幸、藤井輝久、田中一郎	臨床検査医学講座、他
日本血栓止血学会誌 19:520-539, 2008	インヒビター保有先天性血友病患者に対する止血治療ガイドライン	白幡聡、嶋緑倫、岡敏明、天野景裕、花房秀次、瀧正志、三間屋純一、松下正、高松純樹、日笠聡、酒井道生、高田昇、吉岡章、竹谷英之、福武勝幸、藤井輝久、田中一郎	臨床検査医学講座、他
International Review of Thrombosis 3:334-338, 2008	抗血栓療法でのモニタリングにおけるPT-INRの現状	福武勝幸	臨床検査医学講座
日本血栓止血学会誌 19:788-795, 2008	軽症血友病Aから検出される第VIII因子R531H変異の第VIII因子活性とその特徴	稲葉浩、矢富裕、篠澤圭子、鈴木隆史、天野景裕、福武勝幸	臨床検査医学科講座、他
臨床病理 56:570-576, 2008	茨城県南3施設におけるカルバペネム系抗菌薬のAUD比較と緑膿菌の薬剤感受性の検討	大石毅、人見重美、鴨下昌晴、福江英尚、川畑大輔、福武勝幸	臨床検査医学科講座、他
日本血栓止血学会誌 20:3-5, 2009	血液製剤輸血の適応と使用法;血液凝固因子製剤(vWF、fibrinogen、factor XIII)	鈴木隆史	臨床検査医学科講座、他
日本血栓止血学会誌 20:56-65, 2009	化膿性関節炎の術後重篤な出血を引き起こし、インヒビターが一過性に出現した異常第VIII因子(Thr1774Asn)有する軽症血友病A(CRM+)の一例	三浦明、伊藤俊広、嶋緑倫、稲葉浩、福武勝幸、新井盛夫、鈴木宗三、酒井秀章	臨床検査医学科講座、他
癌と化学療法, 35巻7号, 1157-1161, 2008.07	口腔癌の化学・放射線療法による口腔粘膜炎に対するRebamipide含嗽液の使用経験	安田 卓史	口腔外科学講座
神奈川歯学, 43巻, 31-35 2008	音響測定分析ソフトDSSF3を応用した口蓋欠損修復後の発音機能の解析	北条 了	口腔外科学講座
神奈川歯学, 43巻, 60-68 2008	Obturatorによる口蓋欠損の補綴治療手法	北条 了	口腔外科学講座
日本口腔科学会雑誌, 57巻, 389-396	ビスホスホネート投与患者に生じた顎骨壊死の早期発見への取り組み	松尾 朗	口腔外科学講座
頭頸部癌, 34巻, 498-502, 2008 12	口腔扁平上皮癌におけるフッ化ピリミジン系抗癌剤活性酵素の発現と薬剤奏功性との関係	Watanabe M	口腔外科学講座
東京医科大学雑誌, 66巻, 461-472	ビスホスホネート投与患者に生じた顎骨壊死症例	松尾 朗	口腔外科学講座
In vivo, 22, 571-576, 2008	Effect of Sairei-to and its Ingredients on Prostaglandin E2 Production by Mouse Macrophage-like Cells	Kaneko T	口腔外科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本障害者歯科学会雑誌 29巻, 4-31, 3号 2008	都市におけるHIV/ AIDS感染者・患者に対する歯科開業医の医療連携・第2報	蛭名 勝之	口腔外科学講座
Asian J Oral Maxillofac Surg20:34-6,2008	Thyroglossal duct cyst on the inferior surface of the tongue in an elderly woman	Takeuchi S	口腔外科学講座
Ann Plast Surg, 61(1):94-8,2008.	Comparison of Doppler sonography and multidetector-row computed tomography in the imaging findings of the deep inferior epigastric perforator artery.	Imai R, Matsumura H, Tanaka K, Uchida R, Watanabe K	形成外科学講座
外科, 71(2):208-11,2009.	腕神経叢・腋窩神経血管束周囲に生じた巨大リンパ管腫の1例	井田夕紀子, 松村一, 山崎哲資, 渡辺克益	形成外科学講座
21(10):976-81,2008	今日からできる救急・ICUでの創傷ケア 特集4創傷ケアの実際 熱傷の場合	吉澤直樹, 松村一	形成外科学講座
PEPARS, (25):55-63,2009.	【小児熱傷・特殊損傷必須ガイド】小児の陰部・下肢熱傷	吉澤直樹, 菅又章	形成外科学講座
日本形成外科学会誌, 28:588-92,2008.	皮膚・皮下組織に生じた筋上皮腫の1例および本邦報告例の集計	山口健一、菅又章、吉澤直樹、松岡保子	形成外科学講座
日本頭蓋顎顔面外科学会誌, 24(3):202-7,2008	涙小管断裂の手術時期に関する検討	岡田宇広, 松村一, 田中浩二, 渡辺克益	形成外科学講座
関節外科, 28(3):400-05,2009	【整形外科医に必要なマイクロサージャリー】マイクロサージャリーにおける練習モデルの意義	岡田宇広, 松村一, 松林純, 五百部浩昭, 渡辺克益	形成外科学講座
熱傷, 3(34):152-7,2008	et al: 出生直後に受傷した広範囲熱傷の治療経験	松岡保子, 松村一, 岡田宇広, 今井龍太郎, 内田龍志, 田中浩二	形成外科学講座
PEPARS, (26):70-76,2009	【足・下腿難治性潰瘍】糖尿病性足病変・虚血肢に対する大切断の適応と手術の実際	松村一	形成外科学講座
PEPARS, (25):49-54,2009	【小児熱傷・特殊損傷必須ガイド】小児の手の熱傷の治療	松村一	形成外科学講座
日本形成外科学会会誌, 28(5):336-40,2008	足趾切断にいたったcryofibrinogenemiaの1例	権東容秀, 松村一, 今井龍太郎, 内田龍志, 渡辺克益	形成外科学講座
形成外科, 51(9):1021-9,2008	両側唇裂の初回手術 DeHaan法の利点、欠点	渡辺克益, 松村一	形成外科学講座
形成外科, 51(増刊):S77-S83,2008	【外科系医師のための『創傷外科』update】創傷外科各論 急性創傷 熱傷 熱傷創治療のアルゴリズム	渡辺克益	形成外科学講座
東京医科大学雑誌, 66(3):456-60,2008	耳下腺腫瘍切除後の顔面神経麻痺の再建症例	渡邊克益, 権東容秀, 伊藤博之, 本橋玲, 高岡麻里絵, 川田百合	形成外科学講座
PEPARS, (21):50-55,2008	【皮膚腫瘍 外来治療のコツ】線維腫	菅又章	形成外科学講座
形成外科, 51(9):1088-91,2008	肥厚性瘢痕に対するメッシュテープ圧迫法とテープ圧の計測	菅又章, 吉澤直樹, 増田路子	形成外科学講座
日本頭蓋顎顔面外科学会誌, 24(3):222-27,2008	線状型眼窩床骨折(White-eyed blowout fracture)の術後に遷延性複視を呈した1症例	菅又章, 吉澤直樹, 松村一, 片山広介	形成外科学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本職業・災害医学会会誌, 56(3):128-30,2008	アルミニウム発熱剤による熱傷の1例	菅又章, 松村一	形成外科学講座
J Trauma. 64(6): E86-E88	Visualization of efficacy of recombinant factor FVIIa in a pelvic fracture patient	Noda M, Morozumi J, Mishima S, Sasaki H, Yukioka T, Ohta S	救急医学
J Trauma. 66(1): 110-114	Enteral supplementation enriched with glutamine, fiber, and oligosaccharide prevents gut translocation in a bacterial overgrowth model	Azuma H, Mishima S, Oda J, Homma H, Sasaki H, Hisamura M, Ohta S, Yukioka T	救急医学
J Burn Care Res. 30(2):335-340	Protective effects of free radical scavenger edaravone against xanthine oxidase-mediated permeability increases in human intestinal epithelial cell monolayer	Mukojima K, Mishima S, Oda J, Homma H, Sasaki H, Ohta S, Yukioka T	救急医学
Emerg Med J. 26(3):223-224	Follow-up of a self-resolving renal pseudoaneurysm using contrast-enhanced power Doppler ultrasonography	Sasaki H, Yukioka T, Ohta S, Noda M, Homma H, Mishima S	救急医学
医学教育	わが国における研修医のストレス反応とストレス緩和要因の探索およびストレス理論モデルの作成	木村 琢磨、前野 哲博、大滝 純司ほか	総合診療科
Therapeutic Apheresis and Dialysis 12(3): 243-249, 2008	Effects of icodextrin on insulin resistance and adipocytokine profiles in patients on peritoneal dialysis	Takeguchi F.	腎臓内科
American journal of nephrology 28(6): 982-989, 2008	Value of morning home blood pressure as a predictor of decline in renal function in patients with chronic kidney disease	Okada T.	腎臓内科
日本透析医学会雑誌 41(3): 187-193, 2008	血液透析患者に対する簡便な内因性インスリン分泌能検査法の検討	権藤 麻子	腎臓内科
日本腎臓学会雑誌 50(5): 588-596, 2008	慢性腎臓病患者の血圧日間変動-家庭血圧測定による検討-	岡田 知也	腎臓内科
The Annals of thoracic surgery	Commissural autologous pericardial patch repair: a novel technique for active mitral valve endocarditis involving the mitral annulus.	牛島 輝明	心臓外科
The heart surgery forum	How I do it: high-quality intraoperative fluorescence imaging in off-pump coronary artery bypass grafting.	西田 聡	心臓外科
Interactive cardiovascular and thoracic surgery	Awake subxyphoid minimally invasive direct coronary artery bypass grafting yielded minimum invasive cardiac surgery for high risk patients.	渡邊 剛	心臓外科
Histopathology	Breast schistosomiasis japonica--a report of four Japanese cases	Nakamura N	病理診断学講座
Neuropathology	Methotrexate-related leukoencephalopathy without radiation therapy: Distribution of brain lesions and pathological heterogeneity on two autopsy cases	Matsubayashi J	病理診断学講座
Endocr Pathol	Peculiar intracytoplasmic basophilic bodies in papillary thyroid carcinoma	Nakamura N	病理診断学講座
Cancer Res	Regulatory T cell-resistant CD8+ T cells induced by glucocorticoid-induced tumor necrosis factor receptor signaling	Sato E	病理診断学講座

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Cancer	Application of cryobiopsy to morphological and immunohistochemical analyses of xenografted human lung cancer tissues and functional blood vessels	Nakamura N	病理診断学講座
Int J Cancer	Analysis of peripheral and local anti-tumor immune response in esophageal cancer patients after NY-ESO-1 protein vaccination	Sato E	病理診断学講座
Gut	A puzzling cause of melaena	Matsubayashi J	病理診断学講座
Pathol Int	Sebaceous carcinoma of the eyelids: thirty cases from Japan	Nagai T	病理診断学講座
Oncol Rep	Clinicopathological significance of the fragile histidine triad transcription protein expression in laryngeal carcinogenesis	Matsubayashi J	病理診断学講座
Am J Surg Pathol	Sebaceous epithelial-myoeplithelial carcinoma of the salivary gland: Clinicopathologic and immunohistochemical analysis of 6 cases of a new histologic variant	Nagao T	病理診断学講座
Peptides	Pancreatic polypeptide is secreted from and controls differentiation through its specific receptors in osteoblastic MC3T3-E1 cells	Nagao T	病理診断学講座
J Dermatol	Ten cases of sebaceous carcinoma arising in nevus sebaceous	Matsubayashi J	病理診断学講座
Cancer Immunol Immunother	Induction of immune response against NY-ESO-1 by CHP-NY-ESO-1 vaccination and immune regulation in a melanoma patient	Sato E	病理診断学講座

小計 9件
合計308件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長(行岡哲男)
管理担当者氏名	総務課長(吉岡博)、薬剤部長(明石貴雄)、人事課長(中野隆介)、 各診療科長、中央病歴室長(山本謙吾) 医事課長(小美野邦夫)、安全管理室長(相馬孝博)、 感染制御部長(松本哲哉)、臨床工学部長(内野博之)、 臨床工学部主査(服部敏温)放射線部技師長(橋本茂男)、

	保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、 手術記録、看護記録、検査所見記録、 エックス線写真、紹介状、退院した患 者に係る入院期間中の診療経過の要約 及び入院診療計画書	総務課 薬剤部 中央病歴室	カルテ、X線写真等診療録は、入院 外来を含めターミナルディジット ファイリング方式を取り、永久保存 を原則として管理している。
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	従業者数を明らかにする帳 簿	人事課
	高度の医療の提供の実績	各診療科
	高度の医療技術の開発及び 評価の実績	各診療科
	高度の医療の研修の実績	各診療科
	閲覧実績	総務課
	紹介患者に対する医療提供 の実績	中央病歴室
確規 保則 の第 9 条の 2 3 及び 第 1 条の 1 各号 に掲 げる 体制	入院患者数、外来患者及び 調剤の数を明らかにする帳 簿	医事課 薬剤部
	専任の医療に係る安 全管理を行う者の配置 状況	安全管理室
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理 を行う部門の設置状況	安全管理室
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	安全管理室
	医療に係る安全管理 のための指針の整備状 況	安全管理室
	医療に係る安全管理 のための委員会の開催 状況	安全管理室
	医療に係る安全管理 のための職員研修の実 施状況	安全管理室
医療機関内における 事故報告等の医療に係 る安全の確保を目的と した改善のための方策 の状況	安全管理室	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部 総務課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学部 放射線部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 放射線部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 放射線部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部 放射線部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長(行岡哲男)
閲覧担当者氏名	病院管理部長(行岡哲男)、薬剤部長(明石貴雄)、 中央病歴室長(山本謙吾)、総務課長(吉岡博)、人事課長(中野隆介) 各診療科長、安全管理室長(相馬孝博)、感染制御部長(松本哲哉)、 臨床工学部長(内野博之)、臨床工学部主査(服部敏温)、 放射線部技師長(橋本茂男)
閲覧の求めに応じる場所	本館6階会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	5 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 4 件
	地方公共団体	延 1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	54.6%	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		24,036人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		13,500人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		5,418人
	D: 初診の患者の数		65,075人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 9 条の 2 3 及び第 1 条の 1 1 各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	有 (4 名) ・ 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有 (5 名) ・ 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	有 無
<p>・ 所属職員： 専任 (4) 名 兼任 (4) 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 安全管理委員会開催のための資料準備および議事録作成と管理</p> <p>(2) 医療安全推進に関わる各委員会の開催と資料作成、議事録などの管理</p> <p>1) 医療安全推進委員会の開催</p> <p>2) クオリティマネジメント小委員会の開催</p> <p>3) CVライン管理部会の開催</p> <p>4) AED委員会開催他など</p> <p>(3) 各部門の医療安全管理者 (リスクマネジャ) の研修に関する運営と評価</p> <p>(4) 各部門における医療安全推進の状況把握と評価</p> <p>(5) 安全に関する他委員会との連携強化</p> <p>1) 感染症対策委員会との連携と情報共有</p> <p>2) 医薬品安全管理責任者との連携と情報共有</p> <p>3) 医療機器安全管理責任者との連携と情報共有</p> <p>4) 個人情報保護委員会との連携と情報共有他</p> <p>(6) 医療事故など発生時の対応と指導、職員への周知</p> <p>1) 医療事故発生時の原因究明に関する調査および対策に関する活動</p> <p>2) 分析対策委員会および事故調査委員会開催に関する資料準備、議事録作成と管理等</p> <p>3) 管轄官庁届出に関する作業および記録類の管理</p> <p>4) 職員への指導および援助、再発防止に関する対策構築</p> <p>5) 患者、家族への対応</p> <p>(7) 医療安全に係る取り組みの評価を行うためのカンファレンスの実施</p> <p>(8) 医療安全に係る職員への教育研修会の企画と運営と評価</p> <p>(9) 患者、家族への相談に関する医療安全管理者の活動実施記録などの管理</p> <p>(10) その他医療安全対策の推進に関すること</p>	

④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	⑤・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>ア. 医療安全管理に関する基本的な考え方</p> <p>①人間は誤りをおかすという前提に基づき組織的な対策をたてる</p> <p>②事例に学ぶ姿勢を堅持する</p> <p>③職員間のコミュニケーションの障壁を排除する</p> <p>④医療を取り巻く環境の変化を常に捉え、高い技量レベルを確保する</p> <p>⑤インフォームド・コンセントの意味を理解しその充実を図る</p> <p>イ. 医療に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本方針</p> <p>①安全管理指針で規定する医療に係る安全管理のための委員会設置</p> <p>②安全管理室、患者様相談窓口に関する事項</p> <p>③安全管理室長・統括安全管理者・医療安全管理者設置および役割に関する事項</p> <p>ウ. 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針</p> <p>エ. 院内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善策に関する基本事項</p> <p>オ. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</p> <p>①報告、②患者・家族（遺族も含む）への対応、③記録、④関係機関への連絡、⑤事故調査、⑥公表</p> <p>カ. 医療従事者と患者の情報の共有に関する基本方針</p> <p>キ. 患者相談への対応に関する基本方針</p> <p>ク. その他医療安全の推進のために必要な基本方針</p>	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療事故発生防止のための総合的な対策と施設及び設備の改善計画の立案</p> <p>(2) 医療事故等発生状況の把握及び調査検討・病院報告制度の整備</p> <p>(3) 発生した重大な医療事故への対応と、改善策の職員への周知徹底</p>	

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 3 回

・研修の主な内容：

医療に係る安全管理のための職員研修は、安全管理室が卒後臨床研修センターと共同で研修計画を策定し、年に3回開催（うち1回は、当院における医療事故被害者遺族からの申し入れによって開催することとなった「医療事故メモリアルデー」である）し、病院全体に共通する全職員を対象とした内容で、院内の講堂にて講演会を開催している。

参加者の把握方法は、入室時の職員証を用いたカードリーダーの打刻と退室時の聴講確認票の提出があり、一定時間以上聴講した者のみを「参加」とみなすことで、参加した聴講者に確実に受講させる体制を敷いている。

なお、講堂で1度に聴講できる人数には限りがある（320人程度）ため、座席数や業務の関係で当日聴講できなかった職員に対するフォロー体制として、①ビデオの上映会（1講演につき、時間と曜を変えながら15回程度実施）と、②収録DVDの貸出しを行っており、時間的な制約を取り除くことで、全ての職員がいずれかの形で研修を受けることが可能となる環境を確保している。

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備 （有・無）

・その他の改善のための方策の主な内容：

（1）インシデント・アクシデントレポート報告方法の変更 → 一部イントラネットでの報告

（2）医療事故報告範囲基準の変更

（3）日本医療機能評価機構への報告

（4）医療事故防止および医療の質確保に関する活動

・全死亡例患者の報告制度とその検証委員会（クオリティマネジメント小委員会）の設置

（5）医療安全推進委員会（多職種混成チーム）による定期的院内巡視と評価

（6）情報の一元化（職員が知っておくべき共有ファイルの指定と管理）

（7）多職種による合同カンファレンスの推進

（8）インフォームド・コンセント時の複数立ち会いの推奨（看護師の立ち会いの推奨）

（9）医療安全情報の配信（急告等）

（10）「安全管理ポケットマニュアル」の作成と配布

（11）抗がん剤、高カロリー輸液などの中央調剤システムの構築

（12）院内「内部通報制度」の構築等

（13）病院倫理委員会の設置によるコンプライアンス（法令遵守）に関わる活動

1）終末期医療のあり方に関する検討委員会

2）非輸血患者の対応に関する検討委員会など

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	①・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I.院内感染対策の基本的な考え方を示し、防止に留意し、発生時には速やかな制圧を全職員で図る。</p> <p>II.病院長直属の中心的な組織、感染制御部を設ける。</p> <p>III.対策の病院全体への周知・実施を行っていくため、感染症対策委員会と感染リンクドクター・リンクナースを配備する。</p> <p>IV.病院職員に対しては基本的な考え方や具体的な方策に関する研修会を開催する。</p> <p>V.感染症に関する注意情報を随時発するとともに、院内における耐性菌の検出状況を委員会・診療合同会議にて報告する。</p> <p>VI.感染症発生時には職員はすみやかに感染制御部へ報告し、部は原因究明・改善策を委員会にあげる。委員会から全職員に改善策を周知徹底させる。</p> <p>VII.指針は患者その家族が閲覧できる。患者・家族にも感染防止の意義や手技を説明し、協力を求める。</p> <p>VIII.職員はマニュアルを遵守するとともに、自らの健康管理に留意する。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>I.感染症発生報告書による院内における感染症の発生状況の把握と分析</p> <p>II.微生物検査室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析</p> <p>III. 感染制御部立案の具体的対策案について、各種職種代表者による審議</p> <p>IV. 対策案・注意喚起情報の職員への周知（診療合同会議・科長会議・師長会議・総医局会・中央診療部門の各部署での会議や院長通達、委員会からの情報発信など）</p> <p>V. マニュアル・ガイドラインなど院内全般に渡る規約の最終決議</p>	

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年39回
----------------------------	------

- ・研修の主な内容：
- (1) 新採用者オリエンテーション：院内感染対策組織・マニュアル、血液体液曝露事故、標準予防策、感染経路別予防策、医療廃棄物、洗浄・消毒・滅菌の基本、手指衛生
- (2) 医療安全講演：スタンダードプレコーション、医療安全について知っておくべきポイント
- (3) 感染リンクナース研修会：年間目標、活動計画、血管内留置カテーテル感染サーベイランス、グループ活動報告、インフルエンザ・感染性胃腸炎感染防止、防護具の着脱、感染の成立と予防、血液体液曝露事故防止
- (4) 研修医のためのレクチャー：手術部位感染防止ガイドライン、抗菌薬カルバペネム、マクロライド、キノロン正しい使い方、性感染症
- (5) 院内感染対策研修会：医療機関における麻疹対応について、感染管理（基礎から応用まで）、冬場に多い感染症予防対策、感染管理（基礎から応用）
- (6) 他：N95マスク装着法、フィットテスト、手洗い演習、吸引法、感染症勉強会（発熱、下痢、腹痛術後発熱）、尿道留置カテーテル関連尿路感染サーベイランス、結核と院内感染対策、院内肺炎ガイドライン、呼吸器感染症の画像診断

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・病院における発生状況の報告等の整備（有・無）感染症リストによる電話・報告書提出
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
- (1) 耐性菌発生を減らすための広域抗菌薬一定期間使用者リストアップ・血液培養陽性者/耐性菌検出者リストアップに対する現場のラウンドによる指導
- (2) 院内感染対策ラウンドによる基本手技、医療行為、病院環境のチェックと指導
- (3) リンクナースの年間活動計画に基づくグループ活動の実施
- (4) リンクドクター・リンクナースによる自己チェック票を用いた自己評価と改善活動報告
- (5) 感染対策研修会や注意情報提供の周知度を計る全職員試験
- (6) 部署、診療科別の耐性菌検出者・感染者のサーベイランス情報による注意情報発信
- (7) 地域医療機関による感染症研究会開催による医療関連感染対策のための勉強会

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・研修の主な内容：</p> <p>(1) 新規採用者研修（麻薬の管理、劇・毒薬の管理、向精神薬の管理、覚せい剤原料の管理、血漿分画製剤の管理）</p> <p>(2) 医薬品に関する研修（全職員対象：レミナロン注の末梢血管からの投与濃度について）</p> <p>(3) 抗がん剤を安全に取り扱うために（医師、看護師、薬剤師対象）</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・手順書の作成 （○・無）</p> <p>・業務の主な内容：</p> <p>手順書及びチェックシートを作成した。チェックシートによる業務の確認は病院全体及び薬剤部については年2回、病棟については月1回行い、期限切迫医薬品の回収も併せて行っている。採用医薬品については医療安全の観点からも検討している。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 （○・無）</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>(1) 医薬情報室には専任薬剤師を3名配置している。</p> <p>(2) 医薬品の安全使用に関する情報は厚生労働省ホームページ、インターネット、新聞、雑誌、製薬企業等から入手し必要に応じて加工し、イントラネット（薬剤部ニュース）、薬事ニュース、各種会議で解説・周知している。</p> <p>(3) 外観変更医薬品の画像を薬事ニュースに掲載、隔壁未開通事例の多い輸液の採用中止、プレフィルドシリンジの積極的採用を行っている。</p> <p>(4) 抗がん剤のオーダーは薬剤部で全数チェックしている（レジメン、投与間隔等）</p> <p>(5) 入院患者の抗がん剤の点滴調製を薬剤部で実施している。</p> <p>(6) 手術室、ICU・CCUにも薬剤師を配置し医薬品の適正な使用、在庫管理をしている。</p> <p>(7) 処方せん疑義照会を集計・分析して、診療科に必要な情報を提供している。</p>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 57 回 (含む放射線機器年6回)
<p>・研修の主な内容：</p> <p>人工呼吸器をはじめ、厚生労働省の指導事項である特定管理医療機器の7機種(追加された粒子線照射装置は保有しない)等及び新規採用時の機器に対しての説明会や研修会を、関係する医療従事者に対して、有効性・安全性・使用方法・保守点検に関する事項、その他不具合が発生した場合の対応、使用に際し法令上、遵守すべき事項などについて実施している。(人工呼吸器、人工心肺と補助循環、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなど)</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・計画の策定 (○・無)</p> <p>・保守点検の主な内容：</p> <p>人工呼吸器、人工心肺と補助循環、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、放射線照射装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなどに対して、年度計画にもとづきメーカーによる年1~2回の定期保守点検のほか、使用前・使用中・使用後点検等を、臨床工学部内及び現場の医師・看護師・技士(師)により実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・医療機器に係る情報の収集の整備 (○・無)</p> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>メーカーや日本医療機能評価機構から出される情報の収集は、関連部署はもとより安全管理室・臨床工学部・事務部資材課にて行われており、必要に応じて、安全管理室より緊急情報として院内に発信される。</p> <p>機器の安全使用を目的とした改善の実施については、機種統一された輸液ポンプのリース期間が満了となるため、さらに安全機構が追加された機種への更新を計画中である。また、旧式の人工呼吸器2台の更新は、今年度の更新が確定している。機器の更新等にあたっては、関連部門における研修会を実施するなどの安全使用のための措置をとっている。</p>	